

## 解答例または出題意図

### 設問Ⅰ.

学習評価は、学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するものである。「児童生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにすることが大切である。

学習評価について従来から指摘されてきた課題として、「関心・意欲・態度」の観点の評価が、挙手の回数や毎時間ノートを取っているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉えるものであるという誤解が払拭し切れていないことが指摘されてきた。

本設問では、新学習指導要領における「主体的に学習に取り組む態度」の評価において、よりよく学ぼうとする意欲を「粘り強い取り組みを行おうとする」側面と「自らの学習を調整しようとする」側面から評価することについて、具体的な授業をデザインする中で、評価の視点と方法を取り入れることができるかどうかを見ようとするものである。

## 解答例または出題意図

### 設問Ⅱ

平成 29・30 年の学習指導要領「前文」に記載された「持続可能な社会の創り手」をキーワードに、改訂の趣旨、及びこれからの学校教育で育てる児童生徒像について、その考えを問う。

今般の学習指導要領改訂のポイントを捉えることができているならば、基本的な記述は可能である。加えて、今日の社会情勢等を踏まえながら自ら読み解き、これからの学校教育、めざす児童・生徒の学びの在りようについて多面的多角的に考えたことがあれば、より具体的に記述できるだろう。

#### 【問 1】

大別して二つのポイントについて記述があることがのぞましい。まず一つ目が「持続可能な社会」とはどのような社会か、あるいはそうなるために何が必要か、何が問題なのか、等について、今日の社会の在りよう、世界の情勢を踏まえて記述してほしい。(国連・持続可能な開発目標 (SDGs) などを援用しても構わない。) 二つ目は、「創り手」に求められる事柄について具体的に述べられているかをみる。例えば、学習指導要領改訂の方向性(案)等で示された、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力」「生きて働く知識・技能の習得」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養」などに関わる事柄について具体的に考えを述べられるかを問う。二つのポイントいずれか一方の記述も可とする。

#### 【問 2】

今後の教育において、学校の果たすべき役割についてどのように考えているかを問うている。

【問 1】で述べた「社会の創り手」を育むために、学校教育の場においてどのようなことに取り組むべきか、何を大切にすべきか、どのように変化させるべきかについて、【問 1】で述べたことと関連して具体的・論理的に記述できるかどうかをみる。

たとえば、未知の状況にも対応できる力をはぐくむため、社会(地域や世界)と関わり、そこでの問題や課題を取り込んで具体的に取り組むことや、それに対応するため学校の教育課程を柔軟に組み替えること(「社会に開かれた教育課程」「カリキュラム・マネジメント」)、一人一人が問題・課題に向き合い、主体的・対話的に参加し、協働して問題解決能力をたしかに身につけること(「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」)、急速に進展する社会の情報化に対応し、うまく活用し、問題解決や仕事、暮らしに活かせるようにすること(AI・ICTの活用、情報活用能力の育成など)、などが考えられる。